

キャッシュレス化の推進について

1. 本協議会での検討経過

(1) 目指す姿

「県内全域で、誰もが交通モードにかかわらずシームレスに公共交通機関を利用できる決済環境」

(2) 決済方式

「地域住民のみならず、全国（海外）から訪れる公共交通利用者が容易に使用可能な決済手段」
として検討を進めてきた。

2. 取組方針

「本協議会として路線バスに導入を進める決済方式について、地域連携ICカードを基本とする」

- ・広く普及するSuicaが使える、路線バス及びJRの定期券としても使用可能な現在唯一の決済方式である
- ・高速な決済処理が可能
- ・地域独自のポイント等、機能付加が可能

「長野県として、交通事業者に対し、導入費用の1/3を補助する方向で検討」

- ・導入及び維持に係る費用が高額であるなか、複数の交通モード間の接続の利便性を考慮したうえで面的に推進することが重要であることから、行政が導入を進める決済方式について方向性を示すこと及び導入に係る財政支援をすることが必要

※合わせて国庫補助（補助率1/3）を活用可能

3. 今後の予定

交通事業者、市町村、県が連携を密にし、具体的な導入について検討を開始